

PEM025-P01

会場:コンベンションホール

時間: 5月26日17:15-18:45

全地球的地磁気Sq場の長期変化

Long trend of global geomagnetic Sq field

竹田 雅彦^{1*}

Masahiko Takeda^{1*}

¹京大理 地磁気世界資料解析センター

¹DACGSM, Kyoto Univ.

1980年から2005年までの26年間に亘る期間について各日各UT1時間ごとに球関数解析により全地球的地磁気Sq場を等価電流系の形で求めその長期に亘る変化を調べた。求めた等価電流系からその昼間電流渦を出しその時間変化を調べた。その結果、等価渦電流強度の経年変化は、第一近似としては太陽黒点数(SSN)で代表される太陽活動度の変化に対応していることが確認された。一方、経度によって異なる長期的な傾向もあり、例えば日本付近の経度では長期的に弱くなる傾向があるが、ヨーロッパ付近の経度ではそのような傾向は見られず、これは地磁気永年変化もしくは電離層の局所性を反映している可能性がある。

学会時には、SSN,主磁場強度、電気伝導度等のパラメータと地磁気Sq場の関連性予測可能性などについて議論する予定である。

キーワード:地磁気,日変化,等価電流系,太陽活動度,長期変化

Keywords: geomagnetism, daily variation, equivalent current system, solar activity, long trend